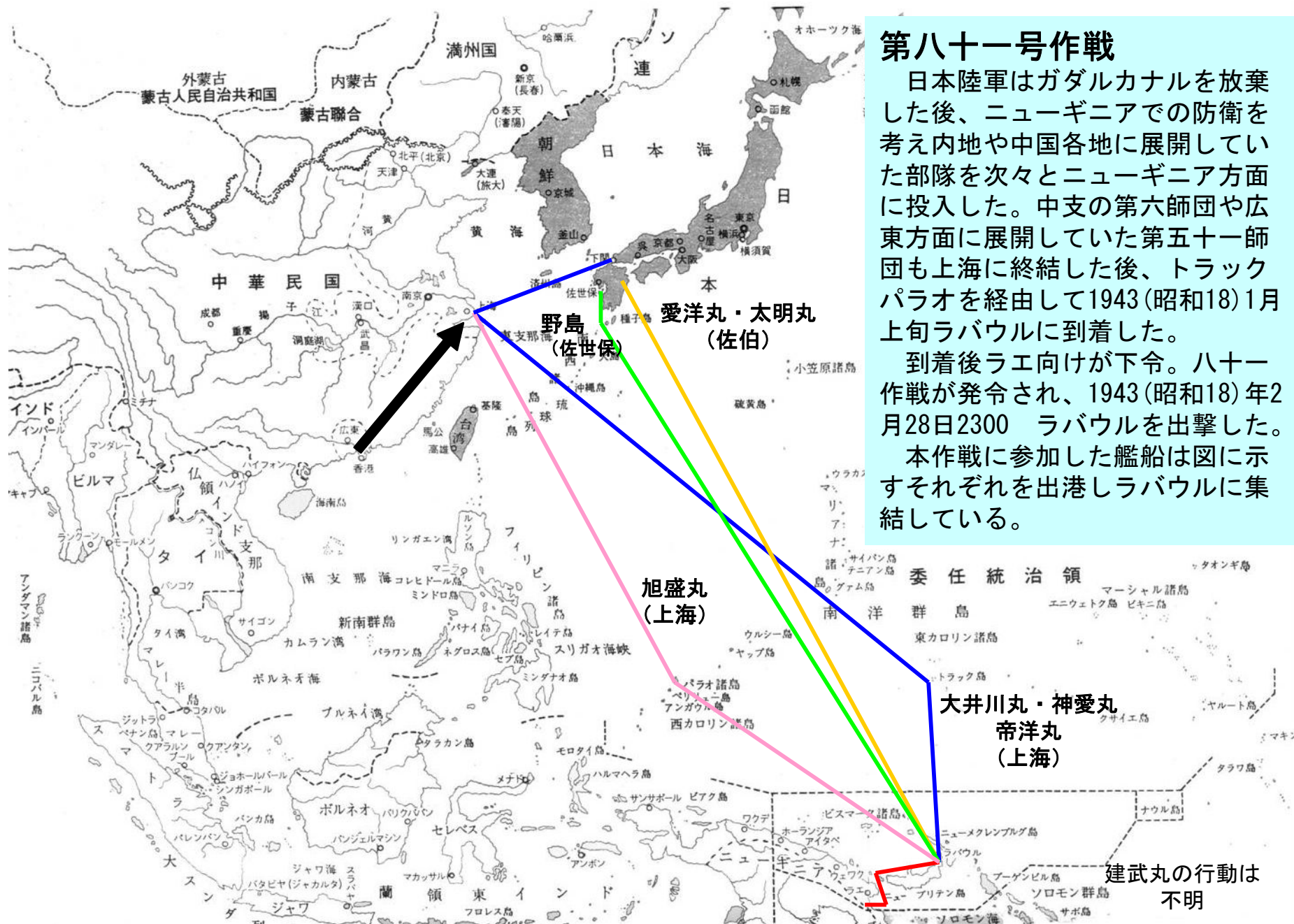




第八十一号作戦

日本陸軍はガダルカナルを放棄した後、ニューギニアでの防衛を考え内地や中国各地に展開していた部隊を次々とニューギニア方面に投入した。中支の第六師団や広東方面に展開していた第五十一師団も上海に終結した後、トラックパラオを経由して1943(昭和18)1月上旬ラバウルに到着した。

到着後ラエ向けが下令。八十一作戦が発令され、1943(昭和18)年2月28日2300 ラバウルを出撃した。

本作戦に参加した艦船は図に示すそれぞれを出港しラバウルに集結している。

建武丸の行動は不明

八十一号作戦 <第五十一師団輸送>

本船団の役目はラバウルに終結していた第五十一師団約5,900名をラエに輸送するためであった。

輸送船8隻、護衛駆逐艦8隻、合計16隻の艦船と上空警戒にあたる約200機の航空機であったが、航空機は3月1日早朝からのラバウル空襲により過半数を失い、結局航空機の護衛は最大41機しか実現できなかった。

船団は途中B-17の触接を受けながら航行したが、3月3日までに輸送船8隻と護衛駆逐艦4隻計12隻が戦没し、護衛駆逐艦の戦死者を除く4,543名が戦死した。

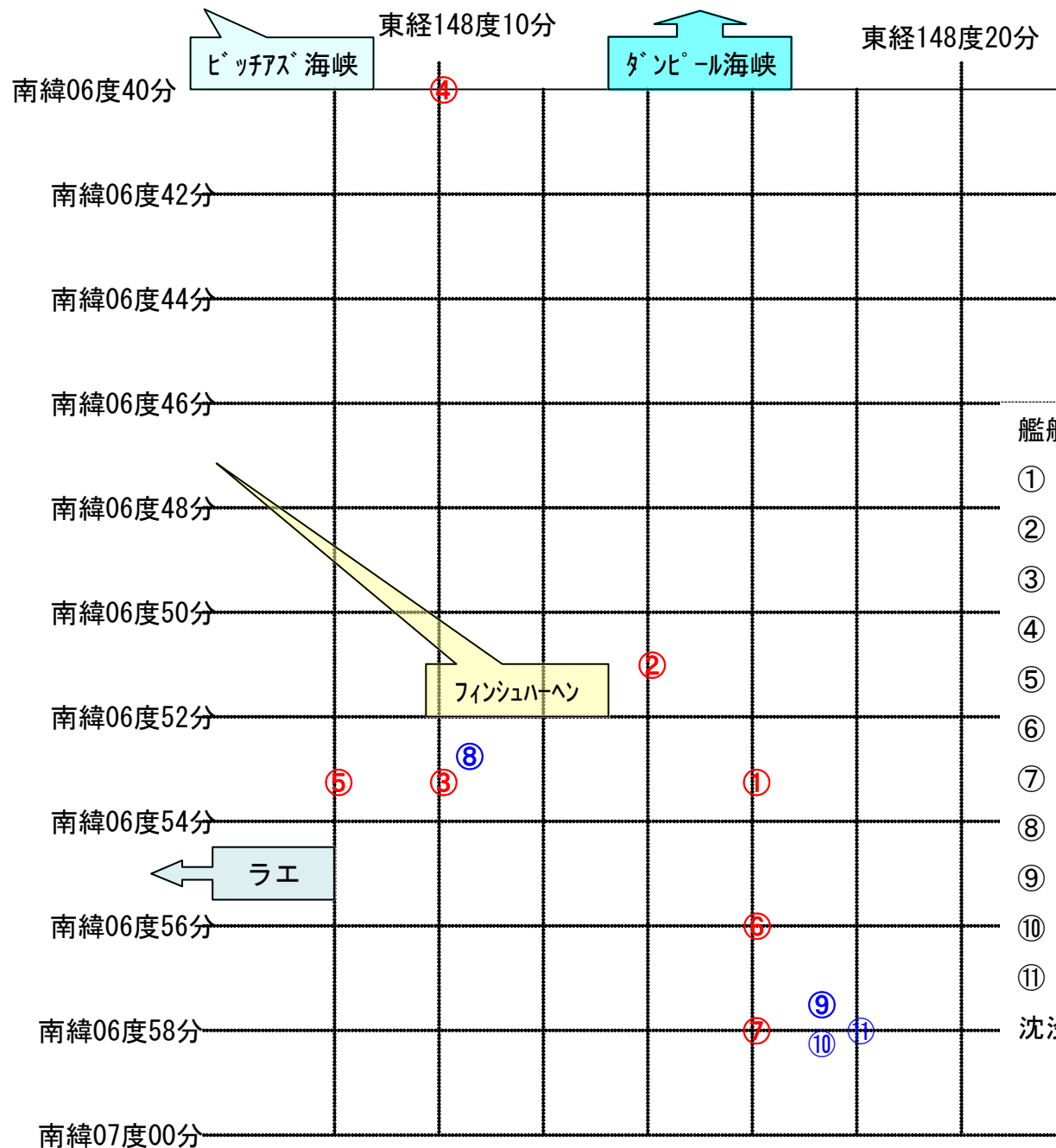
3月1日1600 牂羊岬北東90Km付近で船団は敵機に発見される。

3月2日0800 旭盛丸被弾沈没

3月3日0755 牂羊岬東南東50Km付近でB-26を含む戦爆連合の猛攻を受け、輸送船7隻、護衛駆逐艦4隻沈没 船団は壊滅



旭盛丸を除く各艦船の沈没位置



艦船名

① 建武丸	三光汽船	953総トン
② 愛洋丸	東洋汽船	2746総トン
③ 野島	運送艦	5566排水トン
④ 神愛丸	岸本汽船	3793総トン
⑤ 太明丸	日本郵船	2883総トン
⑥ 帝洋丸	帝国船舶	6801総トン
⑦ 大井川丸	東洋海運	6494総トン
⑧ 朝潮	駆逐艦	2000排水トン
⑨ 荒潮	駆逐艦	2000排水トン
⑩ 時津風	駆逐艦	2000排水トン
⑪ 白雪	駆逐艦	1680排水トン

沈没：2 3, 6 7 0 総トン（6隻）

1 3, 2 4 6 排水トン（5隻）

乗船部隊

旭盛丸 第五十一師団将兵1283名 船砲隊62名
戦死 将兵464名 船砲隊21名 船員1名
輸送指揮官：西川 陸軍少佐

建武丸 将兵25名 戦死24名
輸送指揮官：長谷部 陸軍少尉

太明丸 第五十一師団関係部隊 202名
戦死 船砲隊35名 船員44名
輸送指揮官：土屋 陸軍中尉

愛洋丸 第五十一師団関係部隊 将兵252名
戦死 将兵230名 船砲隊48名 船員45名
輸送指揮官：清水 陸軍中尉

大井川丸 第五十一師団 将兵1210名
戦死 将兵1100名 船砲隊51名 船員78名
輸送指揮官：遠藤 陸軍大佐

神愛丸 第五十一師団 将兵1053名
戦死 将兵20名 船砲隊25名 船員16名
輸送指揮官：本道 陸軍中佐

野島 第五十一師団 将兵1225名
戦死 将兵400名

乗船部隊

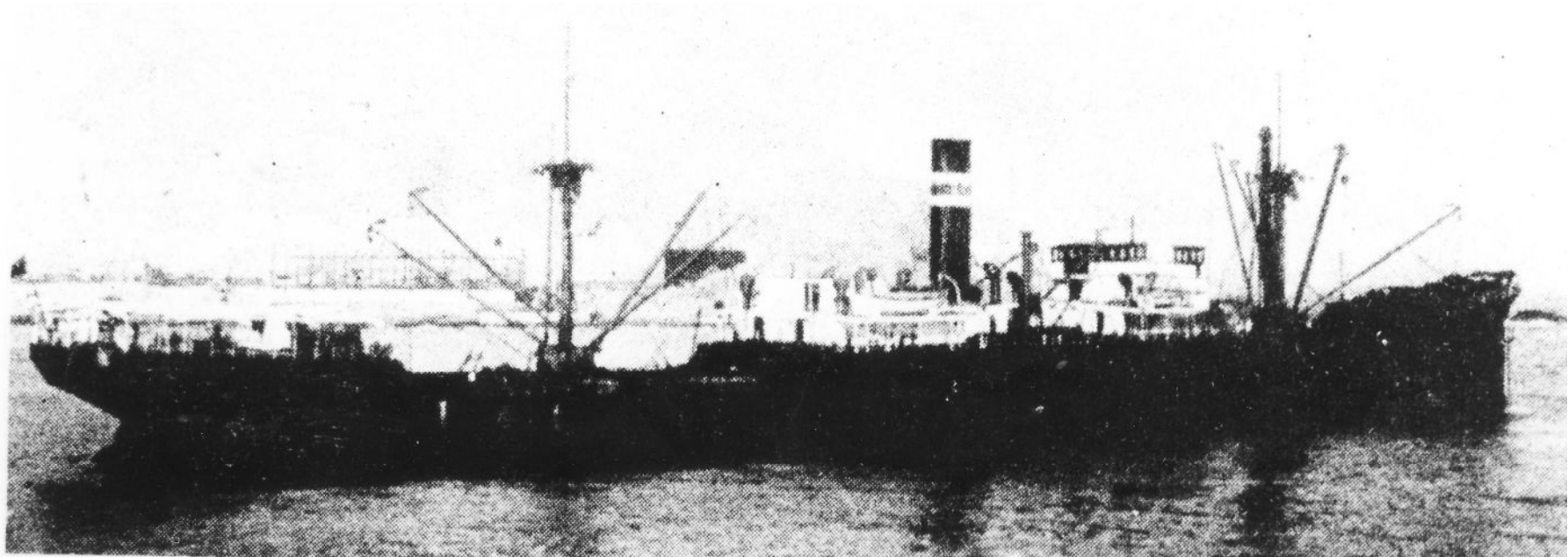
帝洋丸 部隊要員1988名
第十八軍司令部 将兵 29名
第三揚陸隊 将兵 163名
第五十一師団司令部 将兵 58名
野砲第十四連隊 将兵 134名
歩兵第百十五連隊 将兵 946名
第五十一師団通信隊 将兵 240名
第五十一師団兵器勤務隊 将兵 49名
第五十一師団防疫衛生隊
第三野戦病院 将兵 25名
第二百九十飛行場大隊 兵 5名
工兵第五十一連隊 将兵 166名
船舶工兵第八連隊 将兵 173名
合計 1,988名
戦死 将兵1882名 船砲隊15名 船員18名
輸送指揮官：渡辺 陸軍中佐

8隻に乗船していた将兵は総員6,075名
他に837名は護衛駆逐艦8隻に分乗

戦死者 将兵 4,120名
船砲隊 219名
船員 204名
合計 4,543名

生存者は2,427名ラバウル上陸
857名ラエ上陸

本作戦に参加した人員は7,827名で死亡率は
58%となる。（護衛駆逐艦の死者を含まず）



旭盛丸 大同海運 5,493総トン

1942(昭和17)年12月10日門司出港－13日上海入港－22日上海出港－1943(昭和18)年1月1日パラオ入港

1943(昭和18)年1月6日パラオ出港－1月26日ラバウル入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員1,316人を乗せラエに向け出港、3月2日0926ころBoeing B-17からの爆撃を受け、南緯05度02分、東経148度14分（グロセスター岬北北西55Km付近）で被弾沈没。

兵員464名、船砲隊21名、船員1名 合計486名戦死。そのた兵器及び軍需品の多くを失う。

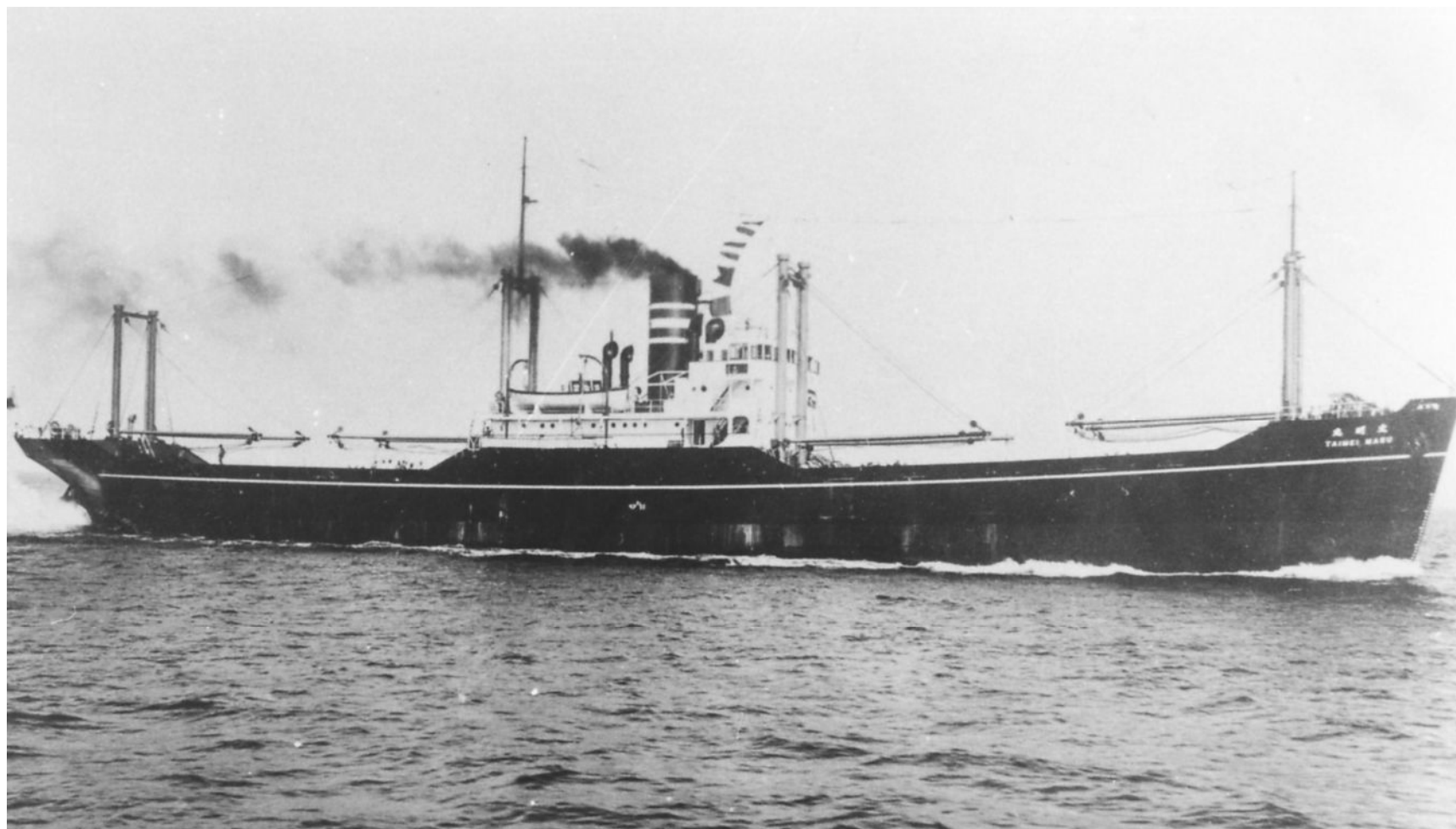
陸軍船舶番号:776

船影 未確認

建武丸（けんぶ） 三光汽船 953総トン

ラバウルに到着するまでの航跡は不明 本船に部隊補給用の航空燃料・ガソリンを搭載していたため、行動を共にした船舶には補給用の燃料は搭載していなかった。

1943(昭和18)年2月28日2330 ラバウルから兵員25人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度53分、東経148度18分（クレチン岬東南東52Km付近）において沈没。兵員24名、船砲隊24名 船員20名 合計68名戦死。航空燃料など多くの燃料を失う。 海上トラック



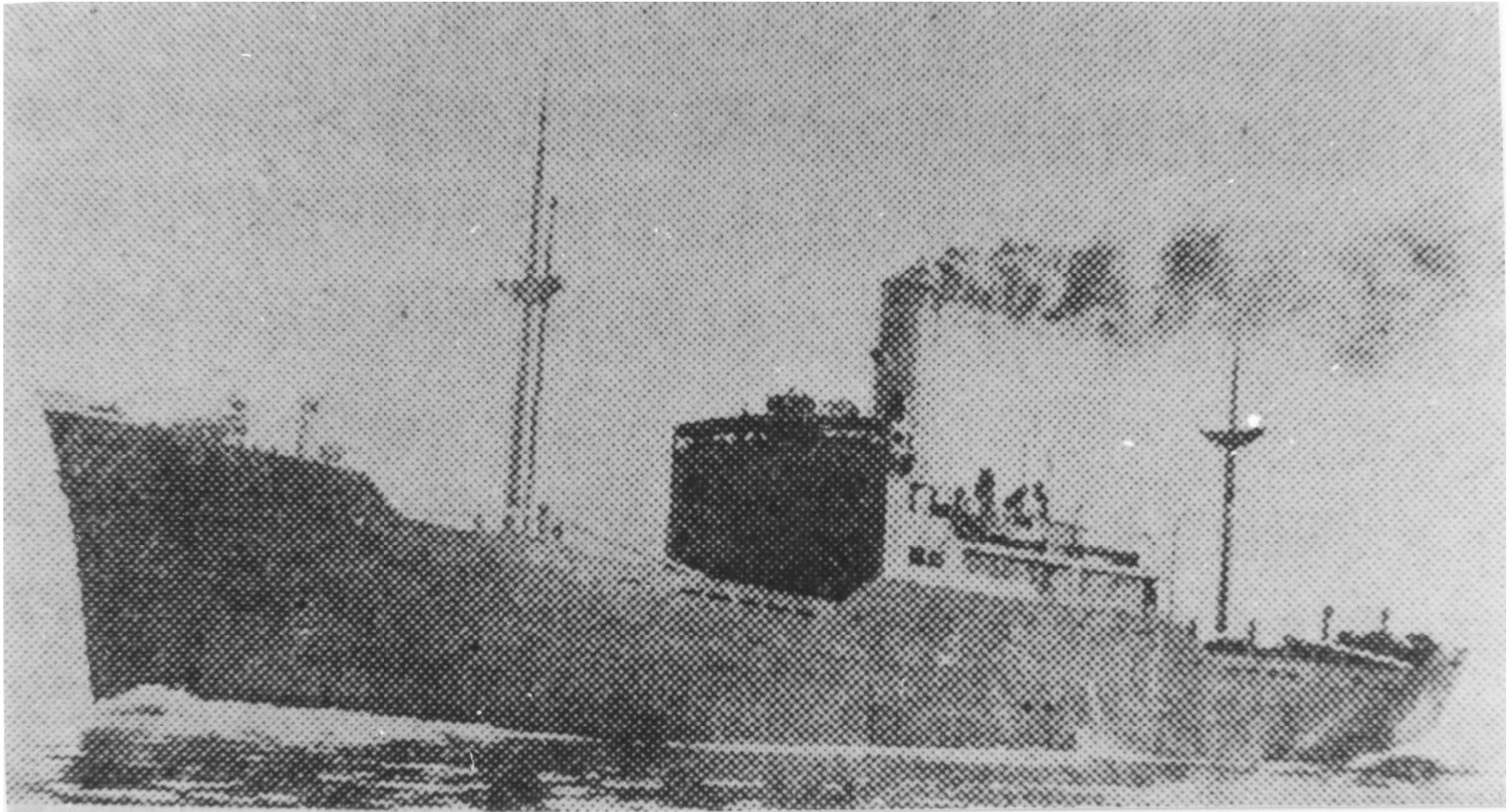
太明丸 日本郵船 2,883総トン

1942(昭和17)年12月9日佐伯出港－1942(昭和17)年12月29日ラバウル入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員202人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度53分、東経148度08分(クレチン岬南東35Km付近)において沈没。

船砲隊35名、船員44名 合計79名戦死。軍需品の多くを失う。

陸軍船舶番号：967

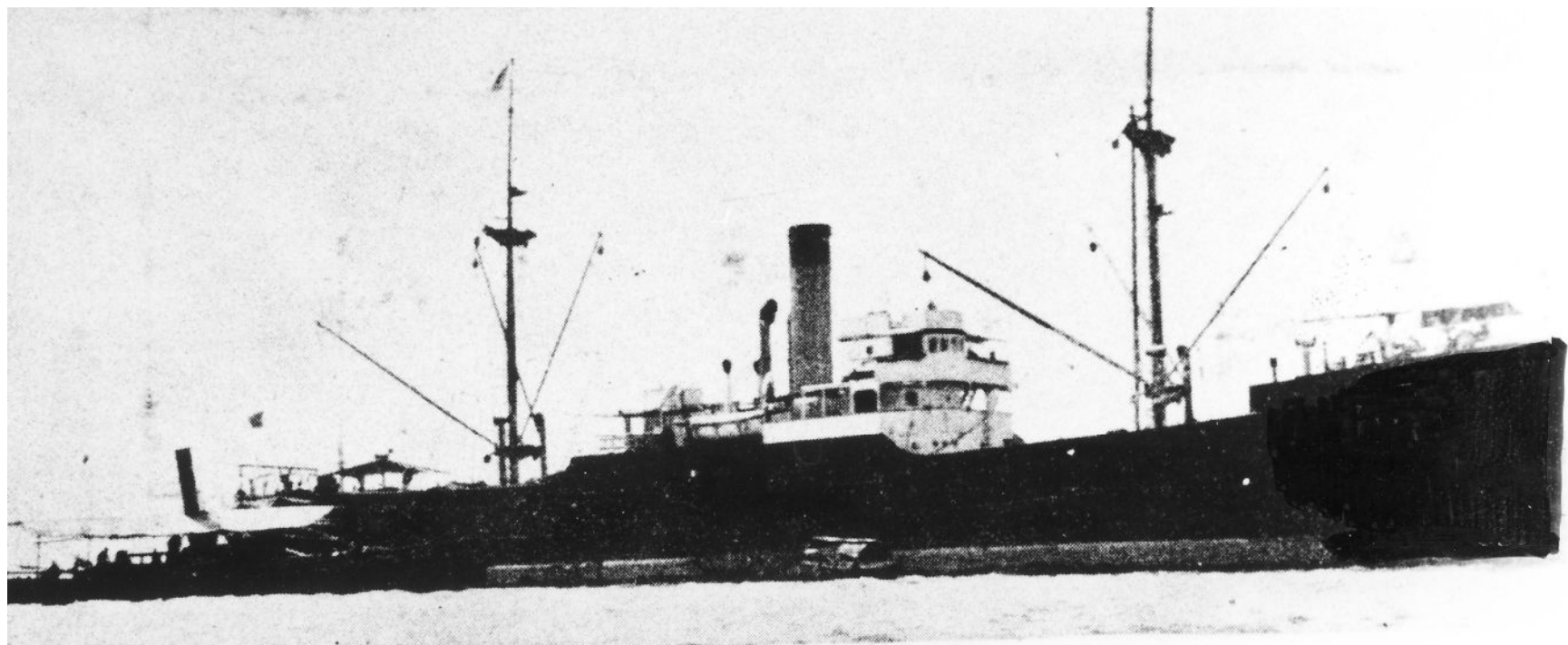


愛洋丸 東洋汽船 2,746総トン

1942(昭和17)年12月24日佐伯出港ー1943(昭和18)年1月7日ラバウル入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員252人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度51分、東経148度14分(クレチン岬南東45Km付近)において沈没。兵員230名、船砲隊48名、船員45名 合計323名戦死。糧秣などの軍需品の多くを失う。

陸軍船舶番号：947



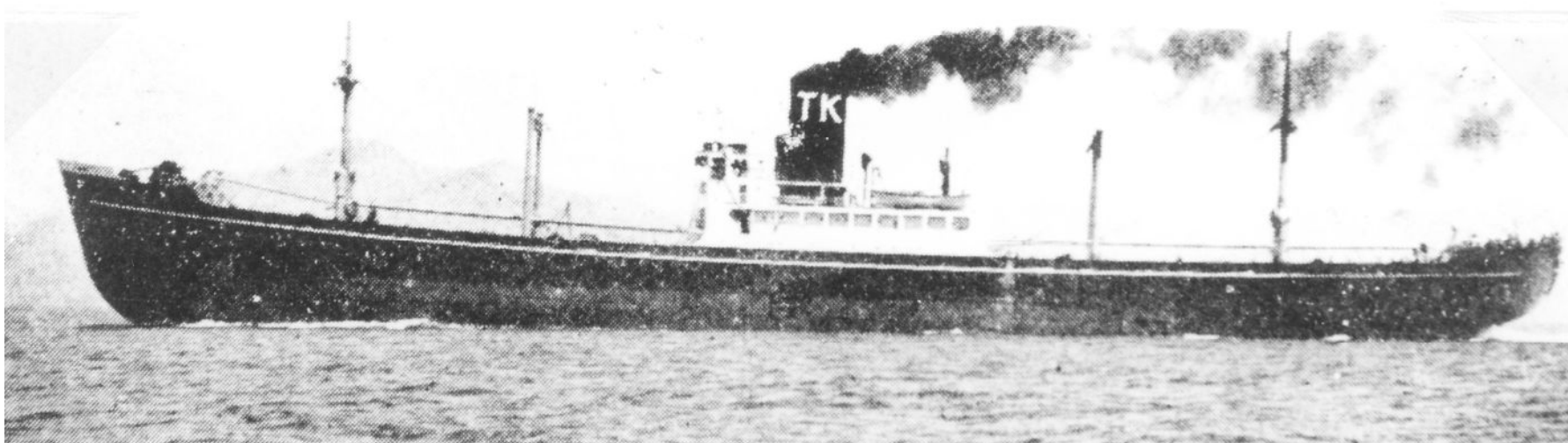
帝洋丸 帝国船舶 6,801総トン

1942(昭和17)年12月24日佐伯出港ー1943(昭和18)年1月7日ラバウル入港

2月末までラバウルーイレバン間を往復

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員1,988人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度56分、東経148度16分(クレチン岬南東37Km付近)において沈没。

兵員1,882名、船砲隊15名、船員18名 合計1,915名戦死。軍需品の多くを失う。 陸軍船舶番号：842

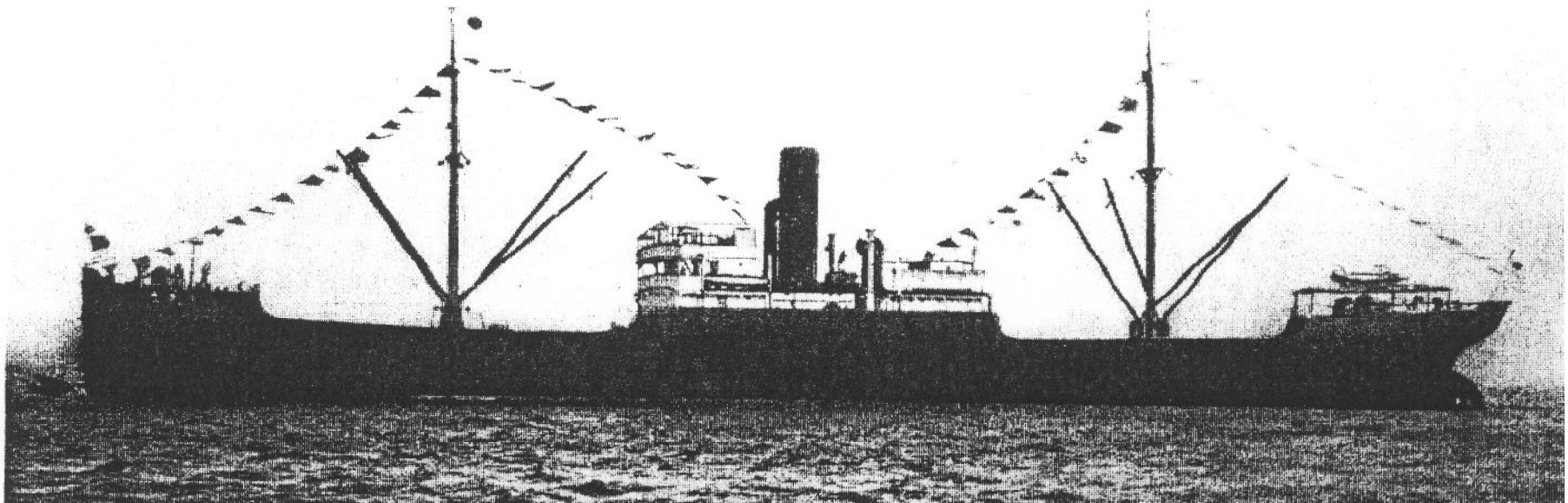


大井川丸 東洋海運 6,494総トン

1942(昭和17)年12月21日上海出港ー1943(昭和18)年1月17日トラック入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員1,210人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度58分、東経148度16分(クレチン岬南東53Km付近)において沈没。

兵員1,100名、船砲隊51名、船員78名 合計1,915名戦死。軍需品の多くを失う。 陸軍船舶番号：480

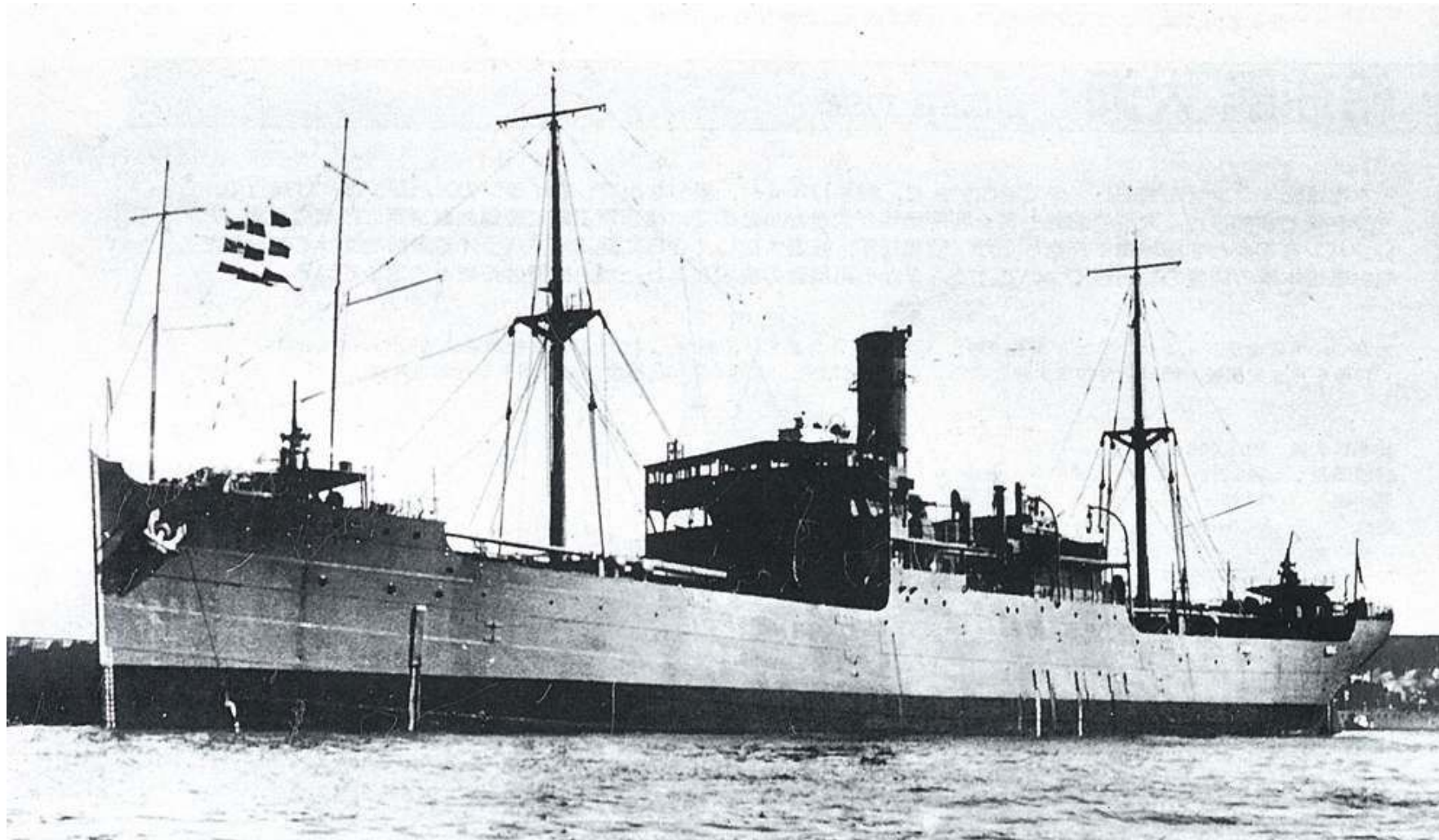


神愛丸 岸本汽船 3,793総トン

1942(昭和17)年12月21日上海出港ー1943(昭和18)年1月17日トラック入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員1,013人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度40分、東経148度10分(クレチン岬南東32Km付近)において沈没。

兵員20名、船砲隊25名、船員18名 合計63名戦死。軍需品の多くを失う。 陸軍船舶番号： 324



野島 運送艦 5,566排水トン

1942(昭和17)年12月21日佐世保出港－1943(昭和18)年1月17日ラバウル入港

1943(昭和18)年2月28日2330ラバウルから兵員1,225人を乗せラエに向け出港、3月3日0800ころB-25爆撃機などからの爆撃をうけ、南緯06度53分、東経148度10分(クレチン岬東南東35Km付近)において沈没。兵員400名 戦死。(写真：雑誌「世界の艦船」より)